

「人権文化をすすめる市民運動推進大会」が開催されました

6月7日(木)、春日文化ホールで、保護司であり、作家、ラジオDJとしても活躍されている大沼えり子さんを講師に、「人権文化をすすめる市民運動推進大会」が開催され、約400人の市民が参加しました。

「いのちを繋ぐ言葉の力」と題した講演会では、大沼えり子さんが、東日本大震災での被災経験や支援活動、また、少年院での保護司活動などについて紹介。「ありがとうと素直に言えることの大切さ」などを本人の実体験を交えて話をされ、人と人をつなぐ「言葉」の大切さをみんなで考える機会となりました。



小さな鉄人たちが自分の限界に挑戦!

グリーンベル青垣周りで、5月27日(日)、「第14回ファインキッズトライアスロン大会」(同時開催:県民体育大会、高校選手権)が開催され、キッズ部門や一般部門など10部門に275人が参加しました。水泳、自転車、ランニングを順にこなす過酷な「鉄人レース」に、参加者たちは歯をくいしばりながら自分の限界にチャレンジしました。



水泳を終え、自転車で勢いよく飛び出していく参加者たち。子どもたちの表情は真剣そのもの

青垣中学校に屋内運動場が完成!



5月31日(木)、青垣中学校で屋内運動場の完成を祝う竣工式が開催されました。以前の屋内運動場が老朽化したため、昨年の7月から全面改築工事に着手していました。

新しい屋内運動場は、延床面積が2,090㎡の地下1階、地上2階建てで、武道場も備えられています。また、備蓄倉庫が併設され、地域の防災拠点としての役割も担っています。

サンテレビで「夏の丹波のほほんぶらり旅」の放送が決定!

テレビでおなじみの金子貴俊さん、小野真弓さんが市内の観光スポットをゆったりと巡りながら市の魅力を紹介します。

【放送日】7月1日(日)午後4:00~4:55
【再放送日】7月15日(日)午後4:00~4:55

【出演者】


金子貴俊


小野真弓

映画「ウォーターボーイズ」、冒険チャンネルなど出演

ぐるぐるナインティナイン、朝だ!生です旅サラダなどに出演

「おもしろ丹波楽旅行社」も好評放送中!

ラジオ関西(558KHZ)
毎月第4日曜日 朝の9時30分~



市長からのメッセージ 【こちら市長執務室】



丹波市長 辻 重五郎



丹波市郷土民謡保存協会のみなさんとともに、丹波市音頭をおどりながら、フラワーロードから三宮中央通りまでパレードを行いました

丹波市の魅力を広くPRしました

5月20日(日)、「第42回神戸まつり」に参加しました。特設ステージでは、氷ノ川太鼓や戦国太鼓が披露され、市の郷土芸能を広く紹介する機会がありました。また、サンテレビの生放送に出演し、市の特産品などを広くPRすることができました。

「テーマ」 「将来の地域医療提供体制のあり方」

の医師が18名に、柏原赤十字病院では、16名が2名にまで減少し、大変厳しい状況にありましたが、再生に向けて真剣な取り組みがなされ、現在、診療機能の回復も見えているところです。

私は、市長として、市民のみなさんが安心して地域の病院で医療が受けられるように、将来の医療提供体制のあり方をこの会を通して提案していきたいと考えています。そこで、この紙面をつかって、市民のみなさんに、現在考えている市内の医療体制の将来像について申し述べておきたいと思えます。まず、2つの病院の現状を分析する

と、診療科の専門化・細分化が進むなかあつて、両病院の診療体制に見合った医師や看護師の確保が難しくなっています。また、両病院の経営は非常に厳しく、23年度の決算見込みでも、両病院で10億円近い赤字を抱えており、相互補完や効率化を図ることも限界があります。さらに、両病院ともに施設の老朽化が進み、今後、その改修費用も課題になっています。

全国各地で医療体制の再編や病院の統合などが行われているところですが、県内では、加古川市民病院と民間病院の統合、三木市と小野市の市立病院の統合、但馬の豊岡病院組合の統合再編

と医療の広域化が進行中です。以上の状況から、柏原病院と柏原赤十字病院の改築併存は困難であり、今後、ひとつの病院としてさらに充実した医療を提供していくことが望ましいと考えています。両病院の特色を生かし、さらに機能付加していける病院をめざしていくべきとの提言をしていきたいと思えます。専門家の意見も聞きながら、現在抱える諸難題を解決し、市民が安心してくらせる地域医療の実施を訴えていきたいと考えています。

東日本大震災により生じた災害廃棄物の広域処理についての考え方

東日本大震災により生じた災害廃棄物の広域処理については、市の当面の方針としては、次の理由により「保留」としています。

環境整備課(氷上庁舎内)
☎ 82-1292



- ① 処理に伴って住民及び作業員が受ける放射線量の安全性について、確認の持てる基準値として示されているかどうか疑問である。
 - ② 中間(焼却)処理をするためには、当該施設の関係自治会住民の理解が必要ですが、現時点では協議する段階に至っていない。
 - ③ 現在、丹波市の多くの焼却灰を大阪湾広域臨海整備センターの神戸沖埋立処分場に埋立て処理していますが、同センターがその埋立て処理の可否を決定していない。
- 今後は、これら必要な情報を収集し確認した上で、市民のみなさまの「安全・安心」を前提に十分に検討し、慎重に判断してまいります。